



◆ 野外オペ「白瀨氷河」

1月4日。白瀨氷河のGPS回収オペレーションに同行しました。一番楽しみにしていたオペレーションです。白瀨氷河は、昭和基地から130kmほど離れたところにあります。幅は8~10km、長さは50kmにもなります。まさしく「水の河」。うねり、ぶつかり、割れ、裂けとその流れの凄まじさが表面から見て取れます。しかし、その激しさが作り出す造形美とでも言うのでしょうか。息をのむ美しさでした。白瀨氷河は、周辺の氷河と比べて非常に流れが速いのが特徴です。近隣の氷河は、1日で数十cm、1年で100m程度の流動ですが、白瀨氷河は、1日6m、1年間で2kmと10倍以上の流動速度があります。南極大陸の氷河の中でも有数の速度です。今回のオペは、1年前に設置したGPSの回収です。氷河の割れ目に落ちていることも懸念されましたが、無事、発見回収することが出来ました。1年間の継続観測は今回が初めてです。今後のデータ解析で、白瀨氷河の流動速度や潮位変動、氷床の押し出し量など、詳細な解明が可能になると思われます。



GPS回収。氷河からの便り

また、「ボツンヌーテン」も見ることが出来ました。第一次観測隊が訪れた山で、映画「南極物語」でもその観測旅行の様子は取り上げられています。氷床上にボツンと顔を出していました。



流線を描く白瀨氷河



青く輝く氷上湖



ボツンヌーテン(標高:1480m)

◆ JARE57 隊員紹介

川村 賢二 (45) 夏隊 重点研究観測 東京都出身
国立極地研究所 研究教育系

都立上野高校から東北大学理学部物理系(地球物理学科)へ進む。大学院でアイスコアの研究により博士号取得。その後、スイスのベルン大学で研究職につき、アメリカのスクリップス海洋研究所、東北大学大学院を経て2007年より極地研に所属。南極やグリーンランドのアイスコアを用いて、過去の温室効果ガス等の変動と気候との関わりを探究している。コア中の酸素濃度から年代決定ができることを発見。過去の二酸化炭素の変動は南極のアイスコアでしか分からないとのこと。今回の南極では、コアの年層が厚いという特徴を利用して、過去2000年間の年代を正確に決定し、この地域の気温や降水量、地球規模の大気の変動などを詳しく探る計画。内陸のH128に1か月余り滞在するが、空き時間も研究論文作成に費やすとのこと。皆さんへは「やりたいことをやりたいようにやればよい。迷ったりしながら大人になるもんだ。ただし、何かを見つければ努力を惜しまないように」とのアドバイス。



氷床コア記録中の川村隊員

◆ 食彩 ANTARCTICA

南極氷。皆さんも南極授業で、南極の氷を間近に見ましたね。気泡が多く含まれていたと思います。白瀨氷河の氷は非常に硬くしまり、気泡も多くありませんでした。何故なのでしょう。爽やかな飲み心地でした。



授業で見たのはこのタイプ



白瀨氷河の氷。硬くしまり、透明度も高い。

